

ロストロポーヴィチ80歳記念  
ドキュメンタリー映画

二十世紀の巨匠、  
人生最大の幕開け。

マエストロ

「スラヴァ(ロストロポーヴィチ)は、音楽においても  
人生においても、私の兄貴分である。  
彼からたくさんのことを学んだ。」  
—— 小澤征爾



2006年ロカルノ国際映画祭正式招待作品

レオパール名誉賞受賞

アレクサンドル・ソクーロフ監督作品

# ロストロポーヴィチ 人生の祭典

出演

ムステイスラフ・ロストロポーヴィチ & ガリーナ・ヴィシネフスカヤ

小澤征爾(指揮者)、クシシュトフ・ペンデレツキ(ポーランド現代作曲家)

監督・脚本:アレクサンドル・ソクーロフ プロデューサー:ドミトリー・コンコフ、セルゲイ・イワノフ、ウラジーミル・ベルソフ 共同プロデューサー:ニコライ・スロフ、アンドレイ・シェチニン  
撮影:イゴール・ジェリジン、キリール・モシヨヴィチ、ミハイル・ゴルゴフ 編集:セルゲイ・イワノフ、音響監督:ウラジーミル・ヘルソフ 資料提供:ガリーナ・ヴィシネフスカヤ、ムステイスラフ・ロストロポーヴィチ  
製作:フィルムカンパニー・ステルツ、スタジオ・ペーレク、スヴァログ・フィルム 2006年/ロシア映画/デジタル作品/カラー/ステレオ/101分 ©フィルムカンパニー・ステルツ、スタジオ・ペーレク、スヴァログ・フィルム

協力:新日本フィルハーモニー交響楽団 後援:ロシア連邦大使館

宣伝:デジタルサイト、ファントム・フィルム、インプレッション・アソシエイツ

提供・配給:デジタルサイト <http://www.digisite.co.jp>

『人生の祭典』公式ホームページ

[www.sokurov.jp](http://www.sokurov.jp)



ロストロポーヴィチ80歳。20世紀の最も偉大なチェリスト、人生最後の初演を世界のオザワと飾る！  
 ロストロポーヴィチの半生を通じて蘇る波瀾に満ちた芸術の歴史。  
 そして彼がこよなく愛した妻、ガリーナ・ヴィシネフスカヤと子供たちの記録。



### ❖ロシアの音楽家夫婦が歩んだ激動の半生

“世界のオザワ”も敬愛してやまないチェロの巨匠、ムスティスラフ・ロストロポーヴィチ。彼の妻で、ロシアのオペラ界に彗星のごとく現れた天才ソプラノ歌手、ガリーナ・ヴィシネフスカヤ。激動の20世紀を生き抜いてきた二人。現在も第一線で活躍するロシアの音楽家夫婦が歩んだためくるめく半生。彼らの人生を通して紐解かれる人間愛と芸術の歴史が、今ここにドキュメンタリーとなって蘇る。

### ❖結婚50周年の夫婦愛

二人が運命の出逢いを果たした場所・モスクワ宮殿ホール（メトロポール）に、結婚50周年を祝うべく、世界の王侯貴族が一堂に会する。列席者には、エリツィン元大統領、シラク夫人、スペインのソフィア女王、ルクセンブルグのマリア＝テレサ大公妃など多彩な顔ぶれが並ぶ。

### ❖世界のオザワがタクトを振る“人生最後”のプレミア・コンサート

ロストロポーヴィチ“人生最後のチェロ初演”となったウィーン・フィルとの演奏風景の一部も収録。世界のオザワがタクトを振り、ペンデレツキの新曲を披露する。

### ❖『太陽』『エルミターージュ幻想』のソクーロフ監督、新たな挑戦

驚異の90分ワナカットでロシア近現代史を描いた『エルミターージュ幻想』や、敗戦前後の昭和天皇ヒロヒトの苦悩と孤独を描いた『太陽』など、類稀な才能を発揮し続けている鬼才アレクサンドル・ソクーロフ監督が、今度はクラシック音楽に挑む。本作品がプレミア上映された第59回ロカルノ国際映画祭で、ソクーロフ監督はレオパール名誉賞を受賞。処女作『孤独な声』（1987年公開）より始まる同映画祭への長年の功績が讃えられた。



人の中にこそ芸術がある。私は彼のチェロ演奏を決して忘れない。——九重親方（元横綱千代の富士）

### Profile

#### ムスティスラフ・ロストロポーヴィチ



1927年3月27日旧ソ連のアゼルバイジャンの首都バクー生まれ。今年80歳を迎える。ピアニストの母、チェリストの父から音楽の手ほどきを受け、16歳でモスクワ音楽院に入学。チェロを学ぶほか、ロシアを代表する作曲家ショスタコーヴィチやプロコフィエフに作曲を学ぶ。在学中にプラハなどのコンクールで優勝し注目を浴びる。56年以降、国外でも精力的に演奏活動を行い、ソ連邦人民芸術家の称号を始め、数々の賞を受賞する。しかし74年、“反体制派”とされたショスタコーヴィチ、ノーベル賞作家ソルジェニーツィン、物理学者サハロフらを擁護したことで政府と対立し、祖国を離れる。75年からワシントンに定住し、ワシントン・ナショナル響の音楽監督にも就任、78年には故国の市民権を剥奪された。その後体制が崩壊したことで、90年には、16年ぶりに祖国の土地を踏むことができ、名誉の回復となった。指揮者としても、世界有数のオーケストラと共演している。

#### ガリーナ・ヴィシネフスカヤ



1926年10月25日レニングラード（現サンクト・ペテルブルク）生まれ。ロシアを代表するプリマドンナ。幼少の頃から豊かで美しい声に恵まれ、ほとんど正規の音楽教育を受けずに個人レッスンによって天性の才能を開花させる。52年にボリショイ劇場に彗星のごとくデビュー、＜エウゲニー・オネーギン＞のタチアーナや、＜戦争と平和＞、＜カテリーナ・イズマイロヴァ＞など世界初演も行う。74年に夫とともにソ連を出国後、アメリカ、ヨーロッパで活躍。65年に初来日して以来、ボリショイ来日公演などで数回日本でも舞台に立っている。現在はモスクワにオペラ・センターを建て、後進の育成につとめている。夫、ロストロポーヴィチとの間に二人の娘オリガとエレナがいる。

### 熱烈な日本びいき

ロストロポーヴィチの日本びいきは有名。中でも相模は格別で、元横綱千代の富士の大ファン。九重夫妻は新日本フィル主催の来日コンサートに駆けつけ、旧交を温めた(写真)。



作曲家と深い絆で結ばれていたロシアの大匠による、真摯でエモーショナルな力演！

**ショスタコーヴィチ『交響曲第5番』**  
 ロストロポーヴィチ指揮  
 ナショナル交響楽団演奏  
 WPCS-21205 定価¥1,050(税込)

**強烈な迫力! 底深い表現!**  
**ショスタコーヴィチ『交響曲第7番』**  
 ロストロポーヴィチ指揮  
 ナショナル交響楽団演奏  
 WPCS-21105 定価¥1,050(税込)  
 販売元:ワーナーミュージック・ジャパン

ソフィア・ヘントヴァ著  
**「ロストロポーヴィチ」**チェロを抱えた平和の闘士  
 新読書社刊  
 吉田雄子訳  
 定価¥2,100(税込) **TEL:03-3814-6791**

ロシアの大地が育んだ本場の味「黒パン」のお店  
 ロシアの「シシテラ」は、女性に大人気で贅沢なケーキのようなパンです。  
 ロシアの「黒パン」はロシア産ライ麦を使用。  
**サンドリオン**  
 TEL・FAX:045-582-0851  
 http://www.sandoriyon.com

「人生の祭典」公式HP  
[www.sokurov.jp](http://www.sokurov.jp)



監督・脚本:アレクサンドル・ソクーロフ プロデューサー:ドミトリー・コンコフ、セルゲイ・イワノフ、ウラジーミル・ベルソフ 共同プロデューサー:ニコライ・スロフ、アンドレイ・シェチニン  
 撮影:イゴール・ジェルジン、キリール・モシコヴィチ、ミハイル・ゴルブコフ 編集:セルゲイ・イワノフ 音楽監督:ウラジーミル・ベルソフ 資料提供:ガリーナ・ヴィシネフスカヤ、ムスティスラフ・ロストロポーヴィチ  
 製作:フィルムカンパニー・ステルブ、スタジオ・ペーレク、スヴァログ・フィルム 2006年/ロシア映画/デジタル作品/カラー/ステレオ/101分 ©フィルムカンパニー・ステルブ、スタジオ・ペーレク、スヴァログ・フィルム  
 協力:新日本フィルハーモニー交響楽団 後援:ロシア連邦大使館 提供・配給:デジタルサイト http://www.digitalsite.co.jp 宣伝:デジタルサイト、ファントム・フィルム、インプレッション・アソシエイツ

## 2007年4月、シアター・イメージフォーラムにて特別ロードショー!

特別ご鑑賞券¥1,500(税込) 絶賛発売中! [当日料金(税込):一般¥1,800/学生¥1,500/会員・シニア・小人:¥1,000の処]自由席・定員入替制/整理券制

※劇場窓口にてお買い求めの方に限り、本編未公開シーン収録ロシア版予告編+日本版予告編DVDをプレゼント

JR渋谷駅より 徒歩8分。宮益坂上がり、青山通りスターバックス右手入る。

TEL:03-5766-0114 <http://www.imageforum.co.jp>

